

- 問1 5世紀中頃に造られた日本最大の面積を誇る大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）の所在地について、日本列島を4つの地域に分けたとき、この古墳が位置する場所を説明したものと最も適切なものはどれですか。（2020年 東京都公立入試 類似）
1. 中尊寺金堂などの文化遺産がある、東北地方（岩手県付近）
 2. 富士山が位置する、中部地方（静岡県付近）
 3. 百舌鳥・古市古墳群が広がる、近畿地方（大阪府付近）
 4. 屋久島などの自然遺産がある、九州地方南端（鹿児島県付近）
- 問2 古墳が作られていた時代に、中国大陸や朝鮮半島から移り住んできた人々が果たした役割について、技術や文化の面から説明したものと最も適切なものはどれですか。（2023年 岡山公立入試 類似）
1. 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。
 2. 唐の優れた制度や文化を直接日本へ持ち帰るため、定期的に使節として派遣された。
 3. 鉄砲やキリスト教を日本に伝え、ヨーロッパとの貿易（南蛮貿易）を主導した。
 4. 九州北部の防備にあたるとともに、防人として東国から徴集された。
- 問3 5世紀、ヤマト王権の首長たちは「倭の五王」として中国の南朝へ使者を派遣し、朝貢を行いました。この外交活動の主な目的を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 山口公立入試 類似）
1. 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めてもらうため
 2. 隋に対して対等な立場での外交を求め、中国の進んだ律令制度をいち早く導入するため
 3. 邪馬台国の卑弥呼が魏から受けた称号と同様の権威を背景に、九州地方の豪族を支配するため
 4. 仏教の伝来をきっかけとして、大陸の進んだ建築技術や工芸品を組織的に輸入するため
- 問4 世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群に含まれ、5世紀頃に築造された日本最大の前方後円墳として知られる、当時のヤマト政権の強大な勢力を象徴する古墳はどれか。（2020年 鳥取公立入試 類似）
1. 大仙古墳（伝仁徳天皇陵）
 2. 箸墓古墳
 3. 高松塚古墳
 4. 稲荷山古墳
- 問5 古代日本における漢字の伝来とその影響について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。大陸から移住してきた人々の活動や、宗教的な背景を踏まえて選びなさい。（2026年 神奈川公立入試 類似）
1. 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。
 2. 聖徳太子が大陸へ渡った際、現地で使われていた文字を日本独自の文字として持ち帰り、仏教の布教に利用した。
 3. 縄文時代の交易を通じて大陸の文字が広まり、その後、仏教を理解するための補助的な記号として漢字が発明された。
 4. 平安時代の貴族が、仏教の教えを分かりやすく書き換えるために、漢字をもとにして日本で初めて文字を作成した。
- 問6 世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群には、5世紀頃に造られた日本最大の前方後円墳である大仙古墳が含まれている。このような巨大な古墳が築かれた時代の外交の特徴として、適切なものはどれか。（2020年 香川公立入試 類似）
1. 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めてもらう活動を行った。
 2. 中国の北朝へ使者を送り、仏教を公式に伝えるよう要請した。
 3. 唐へ遣唐使を派遣し、律令に基づく中央集権的な国家体制を導入した。
 4. 元（モンゴル）からの服属要求を拒否し、九州沿岸の防備を固めた。
- 問7 古墳時代、各地の有力者が巨大な墓を造りました。その中でも、上から見ると鍵穴のような独特の形（一方が四角形で、もう一方が円形）をした、日本独自の形式の古墳を何と呼びますか。（2021年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 前方後円墳
 2. 円墳
 3. 方墳
 4. 装飾古墳
- 問8 3世紀ごろの中国大陸では、複数の勢力が対立して覇権を争っていました。この時期、日本の邪馬台国の女王である卑弥呼が使いを送り、「親魏倭王」の称号を授かったとされる国が含まれる時代の名称を選びなさい。（2016年 和歌山公立入試 類似）
1. 三国時代
 2. 戦国時代
 3. 五代十国時代
 4. 南北朝時代
- 問9 大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」に代表される、5世紀ごろに築かれた巨大な前方後円墳についての説明として最も適切なものはどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）
1. 大和政権の最高権力者である大王（おおきみ）の強大な権力を示すものである
 2. 鎌倉幕府の将軍が自らの権威を示すために仏教の教えに基づいて建立したものである
 3. 律令国家の成立後に、地方を治めるために任命された国司の墓として造られたものである
 4. 北条氏が執権としての地位を確立するために、各地の武士に命じて造らせたものである
- 問10 5世紀頃、大和政権の王（倭の五王）が中国の南朝へ繰り返し使者を送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。（2020年 香川公立入試 類似）
1. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めさせ、鉄資源の確保などの面で他国より優位に立つため。
 2. 中国の北朝から公式に仏教を取り入れることで、鎮護国家の思想に基づいた国づくりを行うため。
 3. 隋に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して中国の進んだ律令制度を学ぶため。
 4. 唐の勢力拡大に対抗するため、朝鮮半島の百濟や新羅と結んで軍事同盟を強化するため。
- 問11 日本の古墳時代にあたる4世紀から6世紀ごろ、朝鮮半島では3つの国家が互いに勢力を競い合っていました。この3つの国家の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。（2024年 滋賀公立入試 類似）
1. 高句麗・百濟・新羅
 2. 魏・呉・蜀
 3. 隋・唐・宋
 4. 渤海・高麗・新羅
- 問12 ヤマト王権の王たちが「倭の五王」として中国の南朝へ繰り返し使節を送り、当時の国際社会において自らの地位を誇示しようとした主な背景と目的として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 栃木公立入試 類似）
1. 朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、外交を有利に進めるため
 2. 最澄などの僧を派遣し、仏教を日本へ正式に導入するための許可を得るため
 3. 大陸から稲作の技術を導入し、国内の食料生産を安定させるための指導を仰ぐため
 4. 坂上田村麻呂を派遣して東北地方を制圧するために、強力な武器の支援を求めるため
- 問13 古墳時代中期（5世紀後半）におけるヤマト政権（大和政権）の勢力圏の広がりを説明する記述として、最も正しいものはどれですか。（2020年 和歌山公立入試 類似）
1. 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。
 2. 近畿地方を中心に巨大な前方後円墳が作られ始めたことから、この時期にはすでに東北地方まで完全に統一されていたと判断できる。
 3. 『魏志』倭人伝に記された女王の朝貢記録により、中国から認められた政権が全国の地方豪族を完全に服従させていたことがわかる。
 4. 仏教を政治に取り入れた聖徳太子が、全国に国分寺を建てることで、九州から関東までの地方組織を直接支配していたことがわかる。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 百舌鳥・古市古墳群が広がる、近畿地方（大阪府付近）	大仙陵古墳は、現在の大阪府堺市に位置しています。この地域には巨大な古墳が集中しており、2019年には「百舌鳥・古市古墳群」としてユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されました。岩手県の平泉や、静岡県富士山、鹿児島県の屋久島もそれぞれ世界遺産に登録されていますが、古墳時代を象徴するこの巨大古墳は近畿地方に築かれました。
問2	答え 1 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。	渡来人は当時の日本にはなかった高度な技術を多数持っていました。硬くて灰色の土器である「須恵器」の製作、養蚕や機織り、金属の加工といった生産技術のほか、漢字や儒教、仏教などの文字や宗教も彼らを通じて伝えられました。これにより、日本の政治や生活様式は大きく変化しました。
問3	答え 1 朝鮮半島での軍事的な優位性や鉄資源の確保に加え、国内での政治的地位を認めてもらうため	5世紀のヤマト王権にとって、武器や農具の材料となる鉄資源の確保は極めて重要でした。そのため、鉄の供給源である朝鮮半島南部での軍事的な影響力を強化することや、中国の皇帝から称号を授かることで、国内の有力な豪族たちに対して自らの王権の正当性を示すことが、この外交活動の大きな目的となっていました。
問4	答え 1 大仙古墳（伝仁徳天皇陵）	大阪府にある大仙古墳は、5世紀のヤマト政権の最盛期に築かれた日本最大の古墳です。これほど巨大な墳墓を築造できたことは、当時の政権が朝鮮半島から確保した鉄製工具を用い、大規模な土木作業を指揮できるほどの強大な権力を持っていたことを物語っています。
問5	答え 1 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。	朝鮮半島や中国大陸から移住した渡来人によって、漢字は仏教の経典とともに日本に伝えられました。当時、文字を持たなかった日本列島の人々は、これを受け入れることで歴史の記録や公的な文書の作成、そして宗教の理解を深めることが可能になり、日本の文明化に大きな影響を与えました。
問6	答え 1 中国の南朝へ使者を送り、自らの地位を認めてもらう活動を行った。	大仙古墳に代表される巨大な前方後円墳が造られた5世紀は、大和政権の王（倭王）が自らの権威を内外に示すために、中国の南朝へ朝貢した時期と重なります。この時期の外交は、朝鮮半島での軍事的な立場を強化し、鉄器の材料となる鉄資源の供給源を確保することが大きな目的の一つでした。
問7	答え 1 前方後円墳	3世紀後半から6世紀頃にかけて造られた、日本を代表する古墳の形式です。近畿地方で発生し、一方が方形（四角）、もう一方が円形を呈していることからその名がつけました。当時の首長の権力の大きさを示す象徴的な建造物です。
問8	答え 1 三国時代	3世紀の中国大陸では、魏、呉、蜀の三つの国が並び立ち、互いに勢力を争っていました。この時期を三国時代と呼び、日本の邪馬台国の女王・卑弥呼は、その中の一つである「魏」に使いを送り、金印や銅鏡を授かることで自らの権威を高めようとしていました。
問9	答え 1 大和政権の最高権力者である大王（おおきみ）の強大な権力を示すものである	「百舌鳥・古市古墳群」に含まれる大山古墳（伝仁徳天皇陵）のような巨大な古墳の造営には、膨大な数の労働者と高度な土木技術、そしてそれらを統制する強力な組織力が必要でした。これは大和政権の最高権力者である「大王」が、広範囲にわたる豪族や民衆を支配下に置いていたことを証明する歴史的背景を持っています。
問10	答え 1 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めさせ、鉄資源の確保などの面で他国より優位に立つため。	5世紀の大和政権は、国内での支配力を強めるとともに、大陸から伝来する鉄資源を安定して確保しようとしていました。そのために中国の南朝（宋など）へ朝貢を行い、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権や政治的な地位を正式に認めさせることで、周辺諸国に対して有利な立場を得ようとした背景があります。
問11	答え 1 高句麗・百済・新羅	朝鮮半島では、北部の高句麗、西部の百済、南東部の新羅の3校が対立し、抗争を繰り返していました。この情勢は当時の日本（倭）の外交や技術導入にも大きな影響を与え、日本は主に百済や加羅（加耶）の地域と結びついて行動していました。
問12	答え 1 朝鮮半島における軍事的な指揮権を中国の皇帝に認めさせ、外交を有利に進めるため	5世紀の東アジアでは、朝鮮半島の高句麗、百済、新羅などが勢力を争っていました。ヤマト王権は、中国の皇帝から「安東大將軍」といった軍事的な指揮権を含む称号を授かることで、朝鮮半島南部における自国の影響力を国際的に正当化しようとしていました。これは、当時の日本が朝鮮半島の鉄資源や先進技術を確保するために、外交的な優位性を必要としていたという背景に基づいています。
問13	答え 1 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。	ヤマト政権の支配範囲が拡大したことを示す考古学的な証拠は、文字が刻まれた金属器の出土です。埼玉県稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）と、熊本県の江田船山古墳から出土した銀象嵌銘大刀（ぎんぞうがんめいたち）には、ともに「ワカタケル大王」という名が刻まれていました。これは、地方の有力者がヤマト政権の大王に仕えていたことを示しており、当時の政権の勢力が九州から関東まで及んでいた確かな根拠となります。